**佐藤　孝一 （さとう・こういち）**

**１、プロフィール**

14歳の時に詩作を始め、24歳の時に第一詩集を刊行した早熟の詩人。教育者としての業績も大きい。

＜生没＞

1918（大正７）年３月５日 ～ 1972（昭和47）年４月４日

＜代表作＞

詩集『北の満月』

＜青森との関わり＞

板柳町生まれ。津軽地方で長年教鞭をとった。

**２、作家解説**

大正７年３月５日、板柳町に生まれる。昭和７年４月青森師範学校へ入学、野球部員として活躍する一方、文学書を読み始める。この頃から群木由夫のペンネ－ムで新短歌誌「蒼星」（青森市）や文芸誌「若草」（東京宝文館）に投稿する。昭和12年、20歳で卒業すると、母校板柳小学校に勤務、この頃から新短歌をやめ詩に移る。また、船水清らと文芸詩「千戈」創刊、編集を担当した。昭和17年に台湾に渡り、台湾三股国民学校に勤務、同年詩集『北の満月』を刊行した。昭和21年帰国、22年に北詩人会発行の「北リ－フレット」に参加し詩を発表した。昭和24年には教員に復職、以後、津軽の小・中学校校長を歴任する。昭和27年に第二詩集『佐藤孝一詩集』刊行。昭和30年、文芸誌「羊眼」を創刊したが、３号で廃刊となった。昭和46年第三詩集『神話』を刊行。翌年４月４日、在職のまま54歳の生涯を閉じた。

**３、資料紹介**

〇詩集『神話』

図書

1971（昭和46）年10月20日

215mm×150mm

第二詩集以後、ほとんど詩を発表しなくなっていた佐藤孝一の第三詩集。限定500部の自家版。「神話」ほか、30篇の詩を収める。